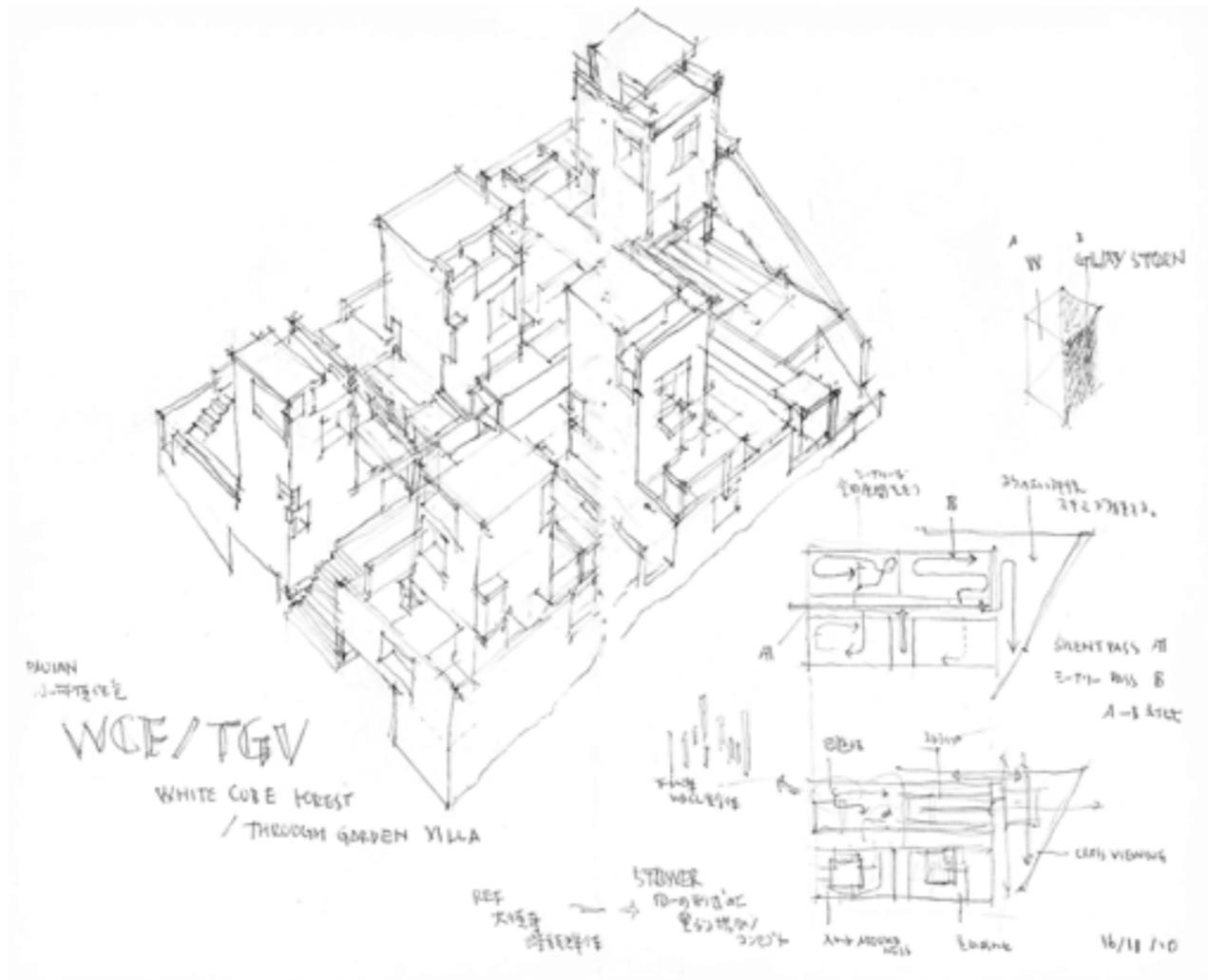


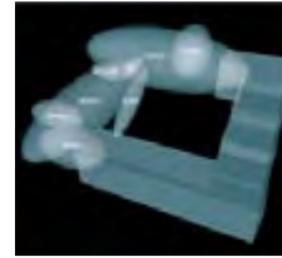
# F O B A

34-3 tanaka todo uji-city kyoto 611-0013 Japan  
Tel +81 (0)774 20 0787 Fax +81 (0)774 20 9888  
E-mail:foba@fob-web.co.jp URL:<http://fob-web.co.jp>



ORGAN 1	4
ORGAN 2	6
AURA	8
BRANCUSI	10
PLEATS	12
REFRAIN	14
PORUS	16
SKIP	18
SAMSA	20
LOTTE PLAZA	22
UNION HEAD OFFICE	24
VLADIVOSTOK CASINO DEVELOPMENT	26
HCQ PROJECT	28
M-KYOTO	30
TAIPEI LIVING GATE	34
忠泰明	36
TAIPEI URBAN FABRIC	38
遠雄花蓮 O5	40
遠雄 HOT O3	42
MOT TOTEM	44
TAIPEI CREATOR'S SPACE	46
DIG TOWER	48
CHONGSHINGDAN	50
FUGUIDAN	52
SHAOPINGDING	54
CHONGANDAN 2	56
BUKAN ECO-CITY MODEL	58
F.O.B HOMES	60
Company Profile	62

# ORGAN 1



器官

現代主義重視空間控制 -- 「形態依功能而定」，已成為單向建築空間形態之形成過程。導致室內演進成為一邊倒的均質性，而計量化之結果更孕育出貧困的境地。從我們的生態上可真實感覺出，建築本身應是為了被人類身體使用而建造，反之亦是規範人類身體行為的媒體。這種相輔相成之身體與建築的關係，透過回歸運動表現出生靈活現的空間。回首當時，在此找出初期設定之管狀空間形式，給予了計劃擴張 / 切斷 / 分歧 / 彎曲等操作多樣化的壁凹空間，發掘了「空洞-ORGAN-」。歷經 2 期建設過程後，於基地發現了擁有喚起人類身體運作的高圍堵性能之身體與形態之「反射」空間。

地點	京都府宇治市
基地面積	310.45 m <sup>2</sup>
建築面積	124.02 m <sup>2</sup>
總樓板面積	262.97 m <sup>2</sup>
結構	鋼構
樓高	地上 3 層
用途型式	辦公大樓

# ORGAN 2



モダニズムは空間の制御を重んじ「形態は機能に従う」ことを強いて一方向的な建築空間の形成プロセスをとった。結果、均質性を指向し計量化されることによる貧困をはらむこととなる。だが本来、我々の生態的実感から言うと建築は身体に使われ、また逆に身体を規制する媒体である。この相補的な身体と建築の関係による回帰的（リカーシブル）な運動によっていきいきとした空間が立ち表れているのだ。そこに立ち帰って、ここでは初期設定された TUBE 状の空間形式にプログラムに対応した拡張／切断／分岐／屈曲などの操作を与え結果、多様なアルコーブが発生する「空洞 - ORGAN -」が見出された。身体による運用を喚起する高いリテイニアー（囲い）性能を持った身体と形態の「反射」空間体が 2 期にわたる建設プロセスを経てサイトに発現している。



機能

地点	京都府宇治市
基地面積	276.86 m <sup>2</sup>
建築面積	110.67 m <sup>2</sup>
総樓板面積	334.49 m <sup>2</sup>
結構	鋼構
樓高	地上 4 層
用途型式	辦公大樓

# AURA



東京は小さな住宅で埋め尽くされている世界でも特異なメガロポリスである。中心市街地のその細切れの一片である3m間口奥行き16mの極小の敷地に、この場所での太陽の軌跡に沿うかたちで欠き込まれた3次元曲面のルーフ形状をもつ、許される最大ボリュームが差し込まれる。ボリュームに沿った壁からの、ひとつつながりのルーフはガラス繊維膜体であり周辺からの視線を遮りつつ、半透明の皮膜を通して都市の光と音を透過させる。結果、周辺環境に充満するホワイトノイズが強調され満たされた「都市場」が立ち表れている。その上に、立体ワンルーム状の内部の非完結プログラム（キッチン／バスは外部の都市空間に依存している）が重ね合わされて、都市に浮遊する「開かれつつ閉じた」生活様相が発現している。



東京是個被狹小住宅所覆蓋的世界，也是一個奇特的大都會。於市區中心有著一個細長區域的片斷，是個正面僅3m寬卻有著16m深的極狹小基地，在此沿著太陽軌跡的形狀，建構了這個擁有3次元曲面屋頂的最大容許量體建築。沿著建築本體牆面與相互接合的屋頂，採用玻璃纖維薄膜建材構造，在遮擋來自周遭視線的同時，城市的光和音聲亦可穿越半透明的薄膜引入室內。以結果作為「都市場域」的表現發展出了與眾不同的內部空間。此外，依據基本單間套房型式設計之內部空間，於規劃上尚屬非完結（廚房／浴室依存於外部城市空間之中）之浮游都市裡擴增為「既開亦閉」之生活樣式。居住於此可謂如同生活於兼具飯店生活的「堅固性」與帳篷生活的「輕巧性」生活之中。



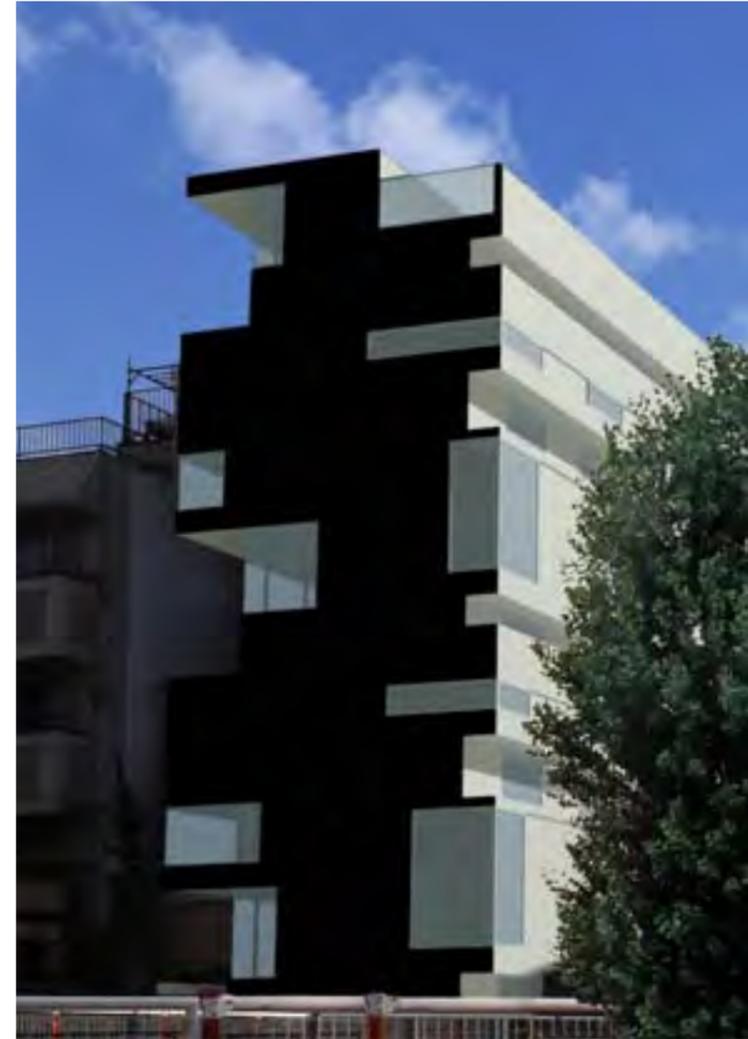
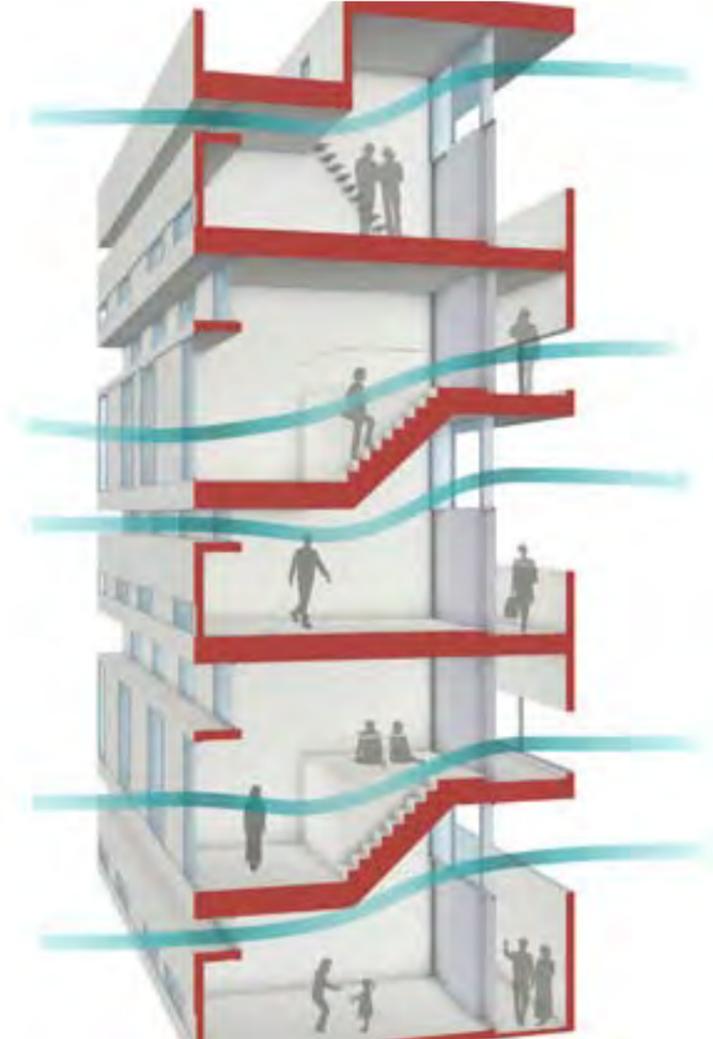
形態

地點	東京都港區
基地面積	77.28 m <sup>2</sup>
建築面積	46.14 m <sup>2</sup>
總樓板面積	122.16 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上3層
用途型式	住宅+工作室

# BRANCUSI



京都洛中の住宅密集地の「うなぎの寝床」と呼ばれる短冊状の土地をそのままに、少しずつズラしながらボリュームを積層し集住体をつくる。各所に発生する微細な線形の空隙が風の通り道／光のギャップとなって並列ユニット群へ微細な環境バッファーを提供することとなる。極端に奥に細長い、そして近代計画学的には悪条件のサイトは「立体連続坪庭」による微気候を持つユニットの連続体が差し込まれることによって豊かな「奥性」を帯びた場所へと読みかえが行われた。空間構成の特性によって、垂直方向へも、そして「奥」へも無限に拡張可能であることからブランクーシの無限柱にちなんでこの名が冠されている。

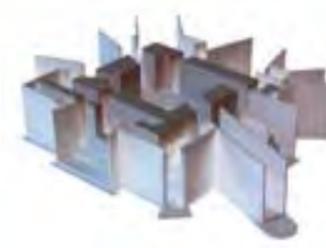


無限

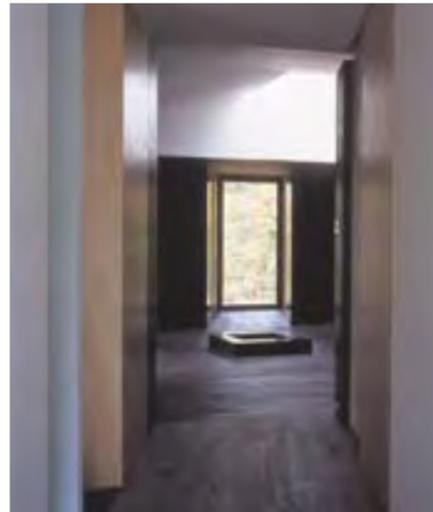
本案基地位處京都洛中區域之住宅密集地段，一般稱之為鰻魚寢床（意指建築物門面狹小而深度非常深）般細長型土地，利用原基地之特色並些微地調整，以堆疊建築量體的手法設計了集合住宅。各處產生之微細線形間隙成為風之通路與光之間隙，提供住戶群體一個微細環境緩衝空間。因建築物深度極端窄長，且恰巧遭遇近代計劃學中所提之險惡條件基地，採用安插「立體連續式小庭院」之設計於擁有微型氣候之各住戶結構體之中，以期帶出豐富的「深度」。而整棟建築形式上之意象，不論於垂直方向、或是「深度」方面之處理亦可無限擴張，故取名布朗庫西並以此向其作品「無盡之柱」致敬。

地點	京都府京都市下京區
基地面積	309.37 m <sup>2</sup>
建築面積	215.78 m <sup>2</sup>
總樓板面積	904.05 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上7層
用途型式	集合住宅

# PLEATS



「入れ子」は多様な身体動作を生み出すバウンダリーが重層する空間形式であると読める。まず、平地に向けて開かれ緩やかな丘陵地のヒダ状の地形に連動する、同じくヒダ状の入れ子状空間体が据え置かれた。ゲストハウスとしても使われる住居プログラムが投影され、場所との応答を繰り返す生成過程を経て、住居に内在する「奥」が反転された内／外の陥入する視線交錯体がつくり出された。断面方向では囲炉裏廻りに座り込むゲストゾーンとカウンターで椅子に座る領域、そしてキッチンで立ち仕事するホストの視線が同じ高さで交わるように、フロアの高低差が調整されている。水平方向と垂直方向の視線交錯がヒダ状の空間をより複雑化してゆく。身体の「すみ込む-ネスティング-」契機が集積した「入れ子-ネステッド-」の変様体である。

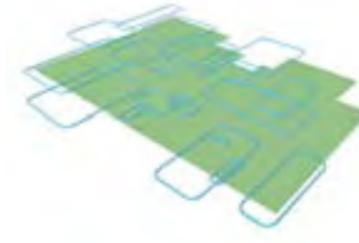


襦

「層層套疊」可解讀出是由多樣的身體動作所產生的多層界線之空間形式。首先與面向平地所展開之緩坡丘陵地凹凸地形一同連動，同為凹凸狀之「層層套疊丘陵地-嵌套狀空間 (NESTED)-」之空間體盤踞於此。可作為招待所使用之住居空間其計劃亦被投影於此，內含與各個場域之對話過程，製造出住居空間內在之「內側」，其後反轉成為陷入內／外視線之交錯體。如此說來，身體經過此種「入住-戀巢-」契機將其集合而成為「層層套疊-嵌套狀空間 (NESTED)-」之變樣體。

地點	京都府京丹後市
基地面積	926.89 m <sup>2</sup>
建築面積	214.21 m <sup>2</sup>
總樓板面積	191.67 m <sup>2</sup>
結構	鋼構
樓高	地上1層
用途型式	住宅

# REFRAIN



比較的大きな屋敷地に残る「5つの庭」を残して、パッチワーク状に増築を繰り返した古い上屋を平屋造のテラスハウスに建て替える計画。架構の構築を5つの庭の領域の掻き取った「かたち」の自己相似的反復に置き換え、またその上に機能/プログラムを重ね、そこに発生するズレの再帰的な調停作業を空間に定着してゆくと言うプロセスで建築場が形成されてゆく。各所にアルコーブ状の領域が発生するワンルーム空間が見出された。単純なルームの反復による、アルゴリズムな過程から生み出される流動的な、そして「可塑的な」建築空間体の創出が目指されている。

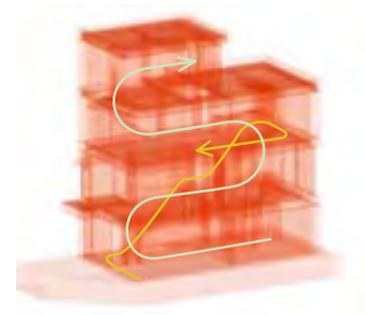


繰返

將較大的日式房屋基地上留下的「5個庭園」留用，依拼接方式陸續增加建築物的興建。並將舊屋改建為平屋型式的附露臺房舍。  
於架構型式的構築階段整合「5個庭園」，尋找「型態」，置換成自己熟悉的語言並且加入機能性/計劃，調整不適合之處後重新審視，直至完整建築場域之形成。各區則自然出現形成如壁龕狀的居室空間。  
單純居室的重覆運用，可謂於計算過程產生流動感的「自然派」建築。

地點	京都府京都市中京區
基地面積	748.03 m <sup>2</sup>
建築面積	364.64 m <sup>2</sup>
總樓板面積	364.64 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上1層
用途型式	住宅

# PORUS



15坪の小さな敷地にたたみ込まれたスパイラル状の線形導線に、蛇行する住ボリュームを重ね合わせると、導線途上の各所に「台場」と見立てられる住ボリュームの隙間が発生する。その立体的な「ポラス状の」構成はスケール/用途は異なれど、修学院離宮の庭の重なり合った立体的構成を巡る体感の連想を呼び起こす。各「台場」はそれぞれに駐車場/吹抜け/リビング/テラスがあてがわれ、特に最上部の「台場」からは比叡山系を仰ぎ見ることが出来る。「見立て」の手法が最小限ボリュームでの二世帯住居という厳しい条件にリダンダンシーを生み出している。

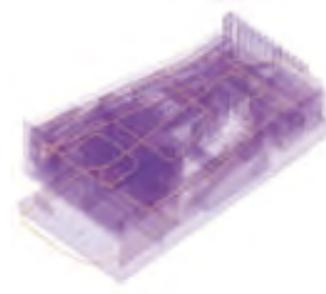


庭園

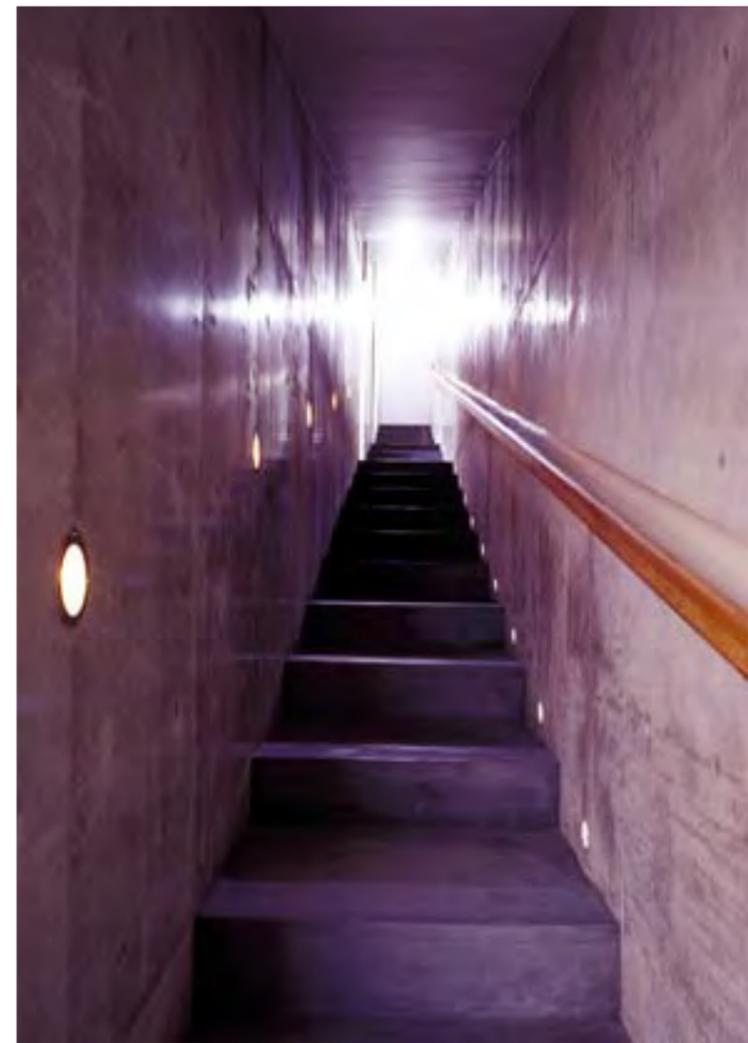
此案位處 15 坪狹小基地中堆疊呈現螺旋線狀之蜿蜒蛇行「線形」住宅建築，圍繞著居住空間量體重疊後所產生之空隙 -- 「庭園」，將產生上昇性之導線體。依照比例及用途的不同可喚起對修學院離宮之庭園互相層疊之體感聯想。地質學上所稱之空隙 - 所謂自「庭園」拓展開視野，處於最上部之「庭園」則可仰望比叡山系。以「近似」之手法創造出最小限度之二世帶居住空間量體，並於嚴厲條件下變化出更多空間。

地點	京都府京都市北區
基地面積	69.33 m <sup>2</sup>
建築面積	43.89 m <sup>2</sup>
總樓板面積	114.70 m <sup>2</sup>
結構	鋼構
樓高	地上 4 層
用途型式	住宅

# SKIP



京都は、近代の都市計画概念に蝕まれつつも「生きて」いる。それはその都市生成の原理が今もって動き続けているからだ。  
 『建てられる建築が線形であること。』この基本原理を我々が参照、再解釈し続けている限り京都は生き続ける。そして、洛中に、平面的に展開するそれらの「線形」群には、現代の経済活動や都市アクティビティの増大などの要因による立体化の圧力がかかっている。そのことを素直に解くと、線形はスパイラル状にたたみ込まれるようになる筈だ。その立体化する「超」線形の上に距離／関係を計りつつ生活空間の連鎖を配置してみた。すると東山の詩仙堂の庭に見られるような「十境十二景」の視線交錯をとまなう空間配置が浮かび上がってきた。我々が提案する新しい「町家」である。

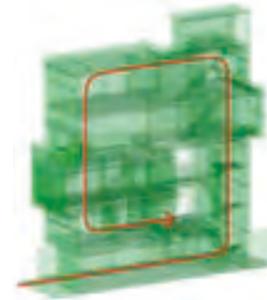


線形

京都即使受到近代都市計劃概念的侵蝕卻也依舊繼續「生存」著。此即為都市生成之原理，直至今日仍持續地運作著。而被建造的建築則屬於「線形」發展。只要我們參照此基本原理持續不停地一再解釋，京都依舊能夠繼續存在著。現代仍可見到採用當初之平面性開展的「線形」發展，由於受到經濟活動規模與都市活動增加等主要因素亦承受了立體化所帶來的壓力。直接分解這線形發展即可得知其為堆疊成螺旋狀之樣態表現。我們試著在此立體化「線形」之上觀察距離／關係之關聯並嘗試配置了生活空間的連鎖。如此一來眼前便會浮現出有如東山的詩仙堂庭園般之「十境十二景」的視線交錯空間配置。這棟住宅仿效京都的原理並參照京都之行事而設計，可將此建築定位於確立新時代京都大樓典範 -KYOTO MODEL 之提示法之試行。

地點	京都府京都市左京區
基地面積	288.50 m <sup>2</sup>
建築面積	230.00 m <sup>2</sup>
總樓板面積	287.00 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上2層 地下1層
用途型式	住宅

# SAMSA



円環状の線形が内含される「立体町屋」である。ウナギの寝床の長手方向の一面は桜並木を持った街路と水路に向かって開かれており、線形に沿った円環状ボリュームの断面はファサードとして街に立ち表れている。円環の中空部分には立体坪庭が設えられそこからゲストルーム、茶室そしてブリッジを渡ってのメインエントランスへアプローチする導線が重ね合わされている。この中空の坪庭は、横に連なる町屋との新たな連携端子、または横方向の空気の流れを生み出すバッファーとして機能することが期待されている。京都のまちなかでの生活の多様性を盛り込もうとすると結果なぜか京都の陶工、八木一夫がまちを歩きながら考えるという自らの都市生活の様態をかたちに託した「ザムザ氏の散歩」の円環状の空間体へと収斂してしまった。京都でつながるアナロジーの連鎖が空間の意味を鮮明にしていく。



環状

此案為内含圓環狀線形結構之「立體町屋」。狹長建物較長之立面，面向櫻花道之馬路與水路開放，沿著線形軌跡之圓環狀量體其剖面則權充為外觀立面。圓環之中空部設置了立體小庭院，依序為客房、茶室及渡過橋梁後映入眼簾之主要入口通道之導引亦相互疊合。此中空小庭院與橫向聯接之町屋成為新的連帶端子，此外來自側面空氣之流動產生了緩頰空間。1F之設計依葡萄酒吧而規劃，進而提出出一種新型近距住職生活樣態，而客房和茶室規劃其中之設計，可充分享受京都洛中地區之都市生活亦是一種新式居住型態的提案。想替京都的街市中生活加入多樣化素材，不知為何最終卻以京都陶工—八木一夫當初於街市漫步時自身所描繪之都市居住樣態為範本，將其集大成並具體表現於「SAMSA 先生之散步」之圓環狀的空間量體中。京都所串連之類比式連鎖將空間的意義表現闡述得更為鮮明。

地點	京都市東山區
基地面積	1470.00 m <sup>2</sup>
建築面積	455.64 m <sup>2</sup>
總樓板面積	9930.17 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上5層
用途型式	住商混合住宅

# LOTTE PLAZA



東京中心市街地の中規模商業ビルディングの開発案。通常の均質なワンルームが分節され各領域に店舗が割り振られるプランニングを、ここではあらかじめ分節された4つの独立したタワーと2つのプレートの集積体へと読みかえた。それぞれのタワーには、一つずつ独立したブランドが割り振られ各棟ごとに独立店舗の様相を持たせることができる。スタッキングされたマスの群衆間の隙間は即物的にプログラムのギャップとなり、ここに意図せざる「パブリックスペース」が発生する。TOKYOの都市の各所に発生している「隙間」には実はプログラム実体を活性化する力が秘められている。このことを選及的にトレースしTOKYO的パブリックスペースの顕在化及び再解釈を目論む計画である。

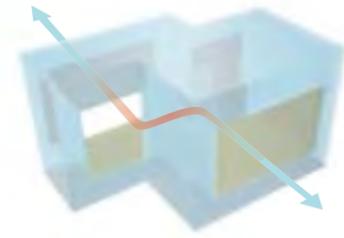


間隙

此為東京市中心區中規模商業大樓之開發案。於一般都市區塊規劃中將全體建築物依各獨立領域分割店舖之配置而計劃，在此分別設計為4棟獨立塔樓與2棟裙樓之集合體。每棟塔樓均為一個品牌之專用空間，可各自形成獨立店舖之面向。在此，堆疊向上的整體建築之間隙即造成實際計劃中之缺口，誕生了意想不到的「公共空間」。在TOKYO這座城市各地所產生之「間隙」中，事實上隱藏著活化計劃本身的力量。此計劃即以追溯其蹤跡，將東京特有的公共空間明確化並重新加以詮釋。

地點	東京都墨田區
基地面積	1908.00 m <sup>2</sup>
建築面積	1474.00 m <sup>2</sup>
總樓板面積	9930.17 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上13層 地下2層
用途型式	複合商業施設

# UNION HEAD OFFICE



南北に平行する2つの街路に面するサイトに置かれるオフィスビルのボリュームに、くり抜き／ズラすといった操作（マニピュレーション）をほどこすことによって発生した TUBE 内部の空洞（ケノン）へ用途空間が仮設的に配され、その上に開放系の空調システムの導入による空気の流れが重なりプログラムに反響する流動場（SPACE）が立ち表れる。相対的に TUBE の「厚み」部分は収縮しながら固定的な場所（PLACE）が定着される。この SPACE/PLACE 対比の空間形式と身体の再帰的運動によって、オフィスビルのアクティビティはボリューム内部に記述されるストーリーである。均質空間の貧困な「自由度」に対峙する、場所の「生成力」を内含する空間形式の開発がテーマである。



挖鑿

面向南北向平行之二條道路旁之辦公大樓量體，施予挖鑿／錯位之操作而產生管狀空間，在其內部空洞裏設置暫時性用途空間，導入開放性空調系統，製造內部空氣流動以呼應整個計劃之運作。相對地管狀空間中的「厚度」部分，在收縮的同時亦定底於固定場所。場地／空間二分法的構成，依據安插交錯的 TUBE 管狀空間與 CUBE 立方體空間之樣態操作項目而生成內含之空間形式。透過此種空間形式的自動規則運動，記述著辦公大樓的活動。進一步說，結論就是〈建築〉為事物生成的〈形式〉。

地點	大阪府大阪市西區
基地面積	1 6 9 0 . 6 6 m <sup>2</sup>
建築面積	8 8 7 . 3 8 m <sup>2</sup>
總樓板面積	4 2 3 2 . 3 7 m <sup>2</sup>
結構	鋼構＋鋼筋混凝土
樓高	地上 5 層 地下 1 層
用途型式	辦公大樓

# VLADIVOSTOK CASINO DEVELOPMENT



ロシアで新たに選定された5つのカジノ特区の一つ、ウラジオストックの開発地区に2012年のAPECサミット開催に合わせて日系企業が建設/運営するカジノコンプレックスをつくる計画。ワインディングしつづ連続するアクセス道路に、クラスター状の諸施設が係留される「ジュエルプラン」と名付けたマスタープランと共に、最端部に比較的高級なクラス設定のカジノ/ホテル/レストランが木造の円型プランの重合体によって提案された。ロシア正教会のキューボラ群体のアナロジーである。夏は、鬱蒼とした森の緑に忽然と、また、冬の雪景色の中では浮かぶように見える「光のパターン」の重なり合いが出現し、カジノの華やぎの演出に連動することが意図されている。

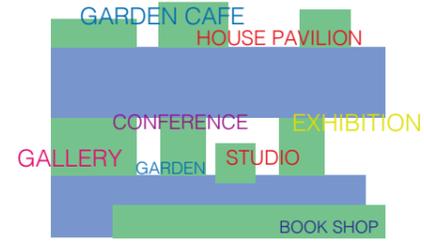


頂頭

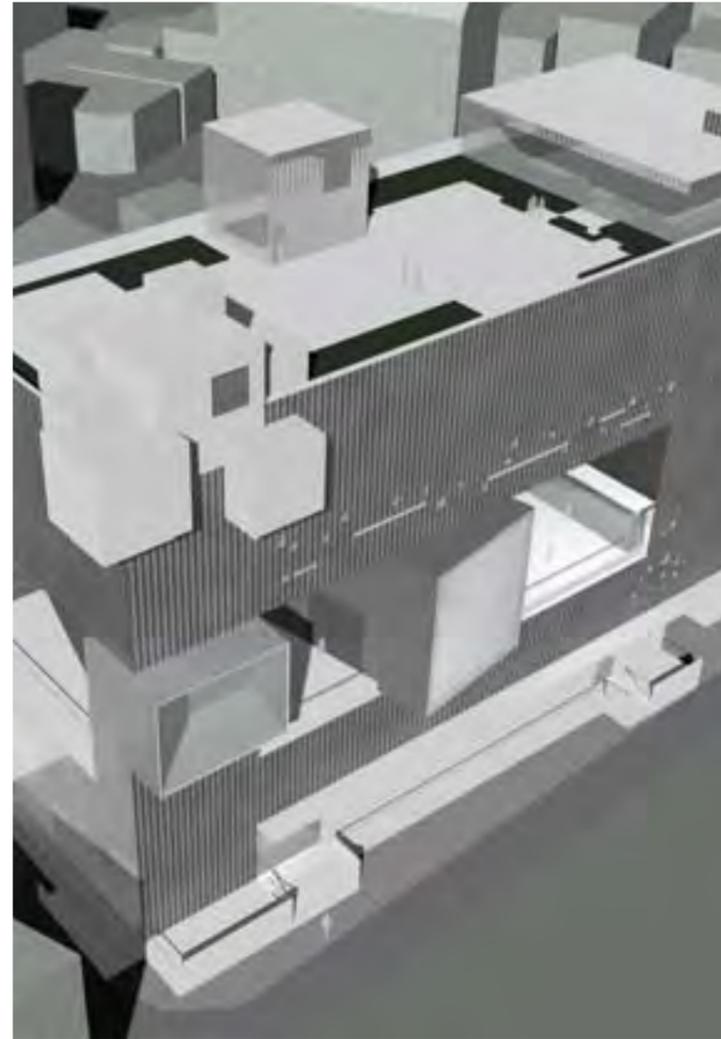
此案位於俄羅斯境內被選為新興開發之五處博奕特區中的一區—海參崴。為了配合2012年APEC的舉辦，由日資企業開發建設以及營運之複合式賭場設施計劃。於延綿不斷的連續彎道兩側留設名為「Jewel Plan」之主要計劃的群聚狀建築設施，並於最終端區域設置圓型建築之集合體--賭場(casino)/酒店/餐廳。建築物的型體以俄羅斯正教教堂的洋蔥頭(圓型尖頂)屋頂群為靈感而設計。夏日時森林蒼鬱的枝葉間，與冬日時皚皚白雪中倏然浮現出交錯層疊的「光之圖騰」，襯托了賭場空間的華麗演出。

地點	VLADIVOSTOK, RUSSIA
基地面積	944,300 m <sup>2</sup>
建築面積	19,566 m <sup>2</sup>
總樓板面積	25,230 m <sup>2</sup>
結構	鋼構
樓高	地上2層 地下1層
用途型式	娛樂 / 商業 / 住宿設施

# HCQ PROJECT



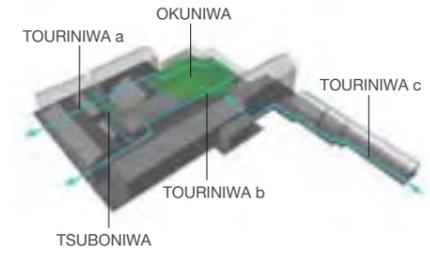
元来、物が売買される空間は「アジール」であった。しかし、近代以降の計画概念はその空間すら制御下に置く。故に量の大小で評価される反アジールとしての「デパート」空間が現出することとなった。規模の小ささは貧困に直結する。我々ここでは制御されるプログラム空間に「隙間」⇨アジールを差し込むことによる商空間の活性化を試みている。建築的には、「絶対空間から相対空間へ」そしてその「操作系の開発」がテーマである。PLACE × SPACE とそれに重ね合わせられる CUBE × TUBE の対立項を設定し、プログラム上で運用することによって結果、「TUBE に挟み込まれた CUBE 群体」の構成が見出された。CUBE 群には固定的なプログラムからはみ出したうつろいゆく領域—ギャラリーやガーデンカフェ、テンポラリーショップ等があてがわれる。



空洞

地點	大阪府大阪市北区
基地面積	1616.64 m <sup>2</sup>
建築面積	1165.90 m <sup>2</sup>
総樓板面積	6280.20 m <sup>2</sup>
結構	鋼構 + 鋼筋混凝土
樓高	地上 6 層 地下 1 層
用途型式	商業施設

# M-KYOTO

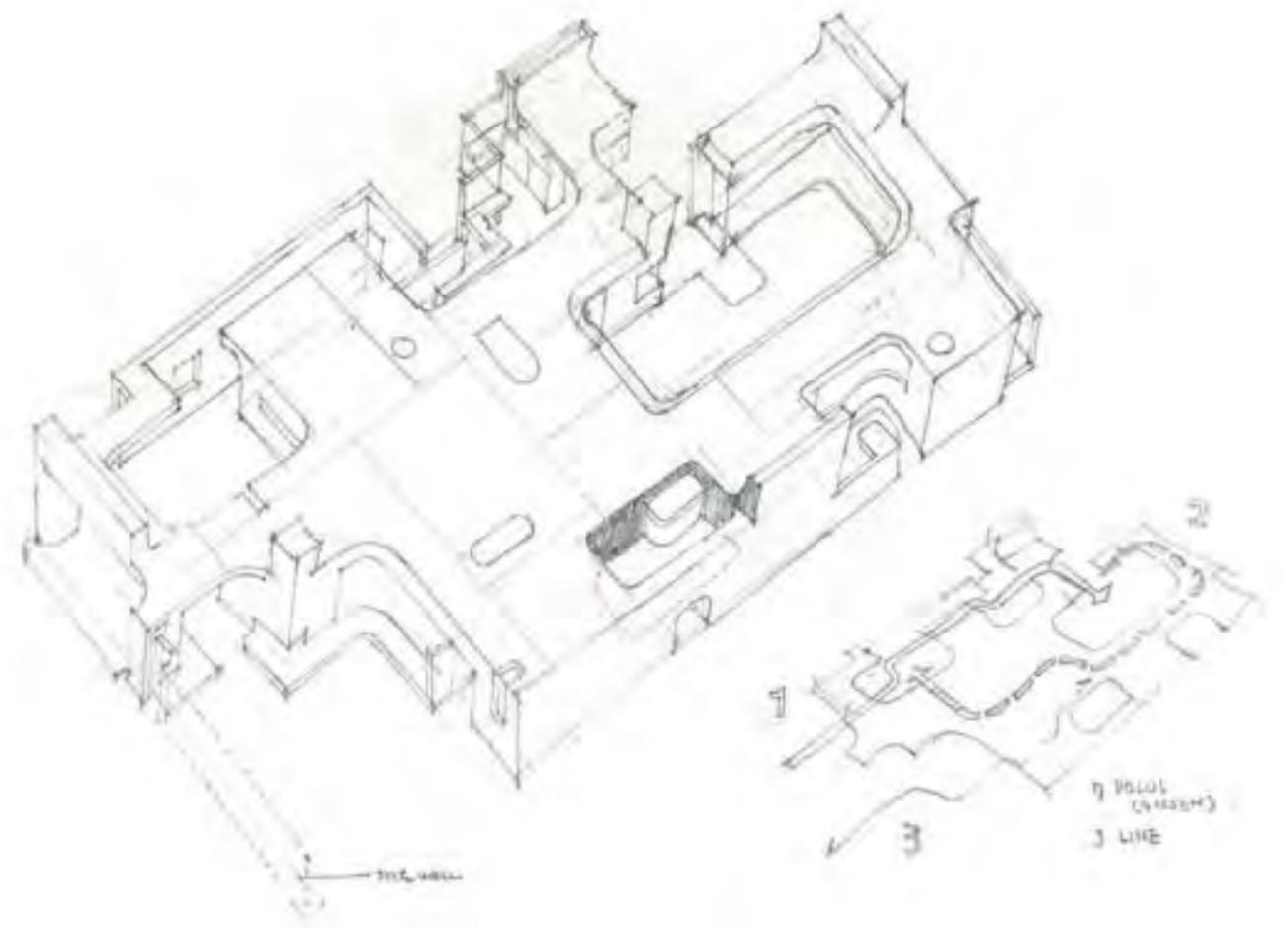
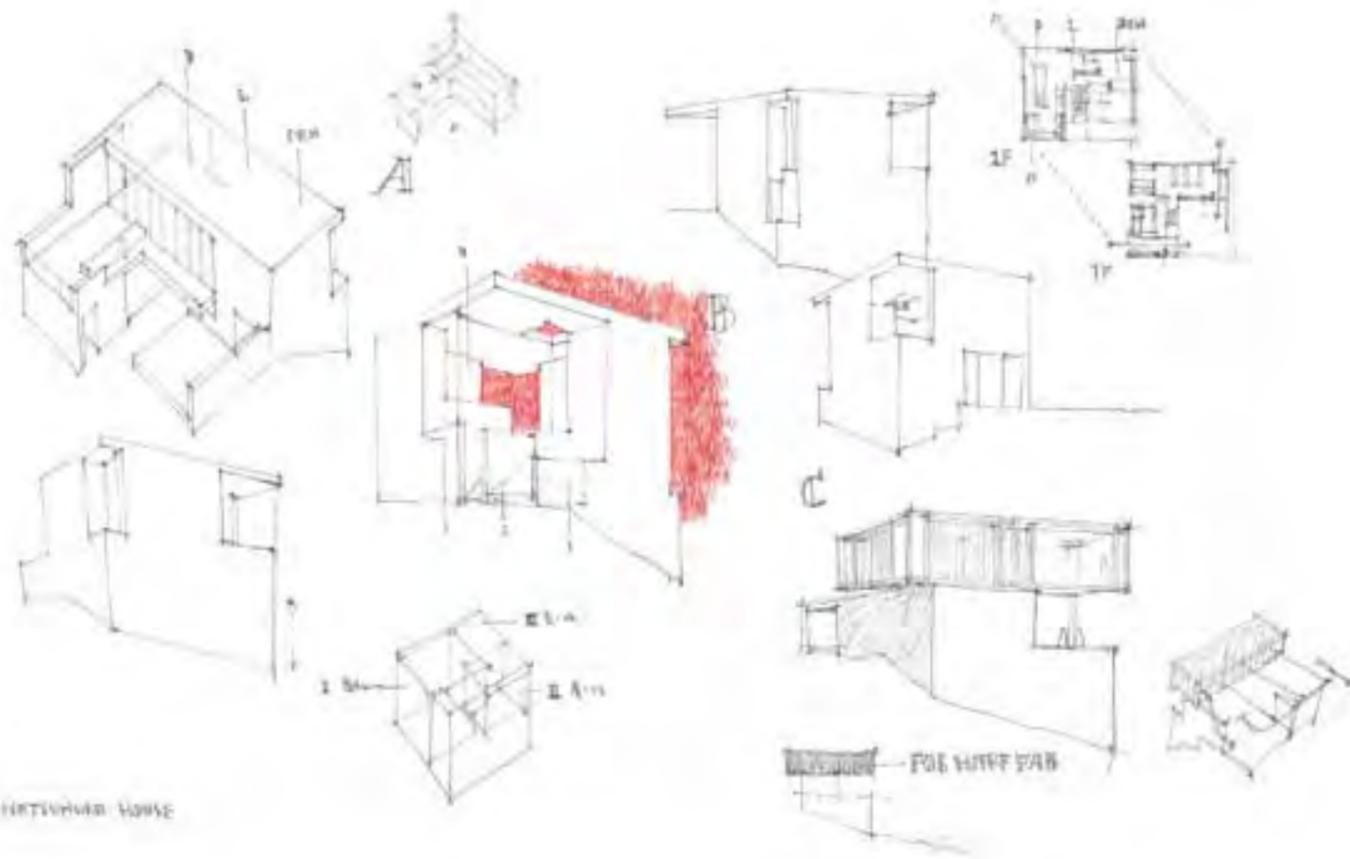


京都洛中の大きな商家町家を修復し、ショッピングモール化する再生計画。数百年の間、幾時にも渡り建替えられ、密集化した建築群体を間引いて隙間を発生させ、そこに路地や坪庭を差し込むかたちで再組成を施した。最終的には、周りの路地からの3つのアプローチをもつ、回遊するパッサージュ空間が作り出された。残された町家には新たな集成材の架構が付加され、耐震性能の向上が図られ、新たな棟は、門型架構の連続体とすることによる区割りの自由度が与えられている。保存された日本庭園にむけてのカフェ棟では、透過する視線を確保するため、ガラスパビリオンが木架構体に挿入されている。まちとスムーズに連動する、つまりは、「みち」が「いち」となる京都の都市コンテキストに呼応する新しい「路地複合体」である。

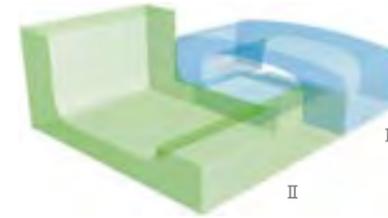


錦市場

地點	京都府京都市中京區
基地面積	1698.89 m <sup>2</sup>
建築面積	615.51 m <sup>2</sup>
總樓板面積	986.28 m <sup>2</sup>
結構	鋼構 / 木造
樓高	地上 2 層
用途型式	商業設施



# TAIPEI LIVING GATE PROJECT



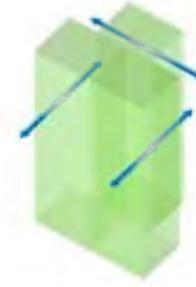
台湾では年間を通じて南国の心地よい「外部生活」を楽しむことができる。しかし、国が豊かになるにつれ、空調完備の閉ざされた住戸が増える一方であり、台北においても、アジア圏全域で見られるように場所固有に豊かさを享受できない都市生活が一般化している。ここでは、ゲート状の架構によってかたちづくられるセミ・オープンモールを内含する集住体－「リビングゲート」を提案した。この大きな「木陰」のような空間には吹き抜ける風が行き渡るであろう。この半外部化されるパブリックスペースとの関係によって各住戸の性能が企画される。大きな天蓋は、台湾でよく見られるモザイクタイルで埋め尽くされる。ゲートをくぐった先にあるサイトには、2期分譲の「谷状」パブリックスペースを持つ集住体－「リビングバレー」が予定されている。



如何讓強烈的「日曬」成為有利條件呢？

在台灣整年均能享受到愉快的南國「戶外生活」。但是現代住宅因完善的空調設備而造成越來越多的封閉空間，就算是居住在台北，都市生活也已趨向一般化，無法享受到整個亞洲圈特有的豐富生活。在此我們提出了如門框架構形式的半開放式購物廣場集合住宅的發想。希望藉著與半戶外公共空間的互動提高住戶空間的使用機能。大型天蓋屋頂是以台灣常見的馬賽克磁磚加以張貼裝飾。穿越大門之後的前方用地為第2期販售之設有「谷狀」公共空間的集合住宅「Living Valley」。

地點	台灣 台北市
基地面積	12426.40 m <sup>2</sup>
建築面積	913.24 m <sup>2</sup>
總樓板面積	7007.93 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上10層 地下3層
用途型式	集合住宅+商業施設



台北の強い日差しが深い陰影となって刻み込まれる格子状ファサードは台北の光を内部に導くフィルターとして機能する。格子各部の面材はフラット／エッジの二つの面の変奏による光の濃／淡の調整子となっている。各ユニットは必ずフラット／エッジの両方の「庇」を持っており、各所の異なる光の入射率をきっかけに内部空間の部屋配置が編成されることが期待されている。そして同時に、このファサードは台北のカオティックな都市様相の還元的表現でもある。また、T字型平面配置によって1フロア最大3ユニットそれぞれが風が通り抜けるプランを採ることが可能となった。ここでは台北の光と風、そしてダイナミックな都市様相の空間的翻訳が多様に試みられているのである。



如鴿籠般鐵窗的狹窄群體為混沌都市的型態建構要素

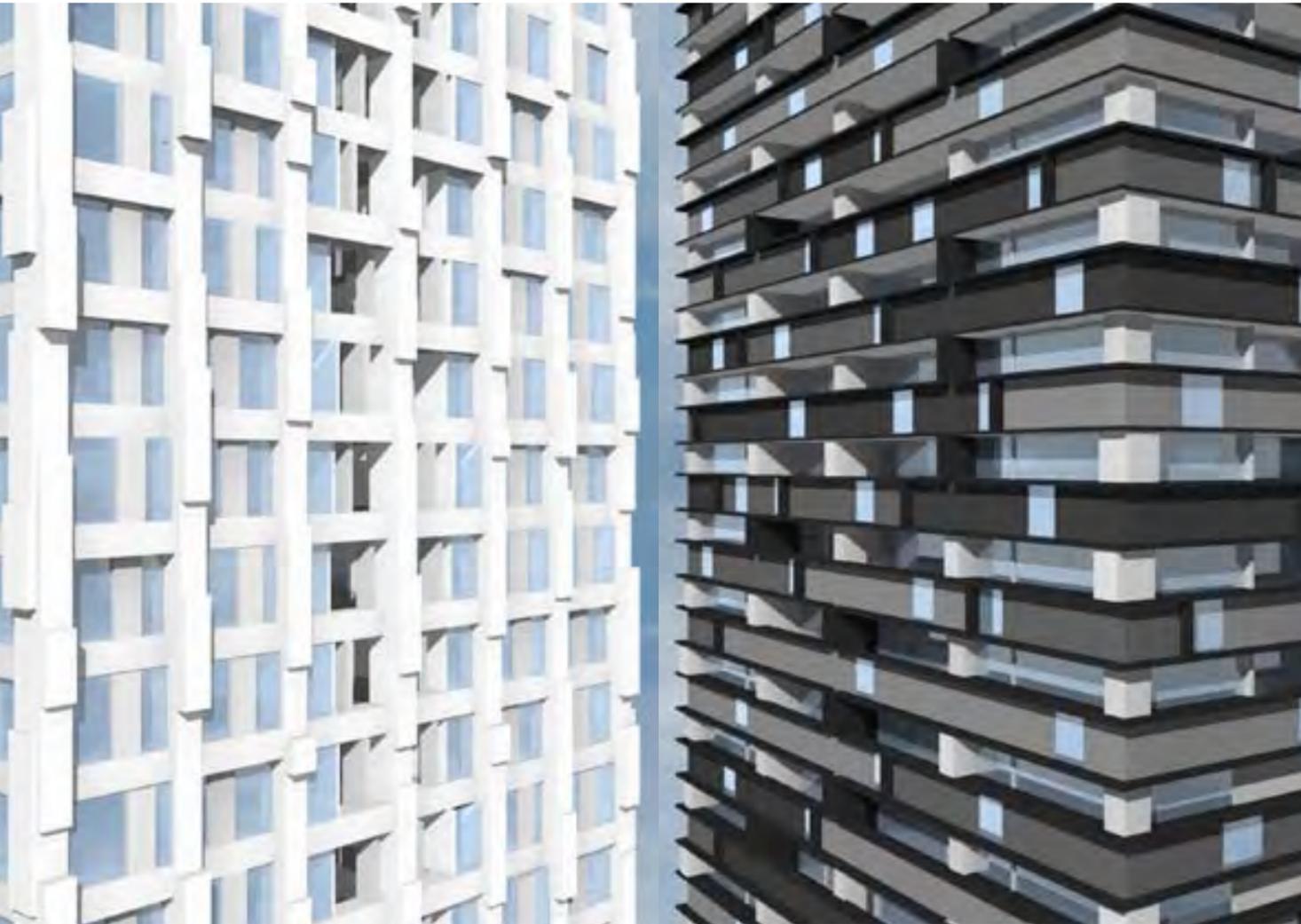
如鴿籠般的狹窄群體為混沌都市的型態建構要素，被台北強烈陽光深深地刻上陰影的格狀建築物外觀，同時具備著將台北的日光導引到空間內部的濾鏡作用。依據格子各部分面材的平整 / 銳利的二個面相變化，決定引入內部空間的光線濃 / 淡，同時這樣的外觀也具有還原台北混沌都市機能的表現。而 T 字型平面配置的規劃，使得 1 個樓層最多可分隔為 3 戶並可各自規劃達到通風性佳格局的可能性。此開發案嘗試了將台北的光與風，以及動態城市樣貌的空間加以解讀。

地點	台灣 台北市
基地面積	1470.00 m <sup>2</sup>
建築面積	455.64 m <sup>2</sup>
總樓板面積	9930.17 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上 14 層 地下 3 層
用途型式	集合住宅

# TAIPEI URBAN FABRIC PROJECT



台北の都市の豊かさはその表層に立ち表れている。そして、台北にもその特徴ある表層に豊かさが見てとれる。過剰なサインの氾濫や生活がにじみ出るパードケージの集積体としてのその都市表層に。創造力をかきたてられる都市表層の「使い込み」方のバリエーションの多様さが、そのまま台北の都市の活力の表現体となっているのだ。ヨーロッパ各地の都市に見られる「静的」な都市表層とは対比的な「動的」振る舞い。台北の都市表層からその構造を抽出し再現することは「台北」を特化し、評価を与え都市の質として意識化することと同義である。本プロジェクトでは、それぞれ異なる抽象化された台北的表層群を一種のコラージュ体として再構成させることにより、全体が周辺の表層と共振して、新たな都市質を生み出す機構として発動することが期待されている。

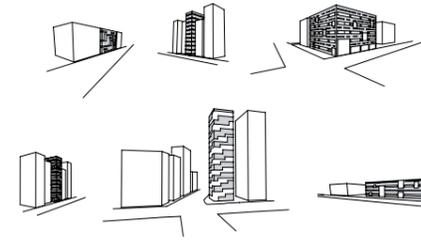


雜亂中所隱約看得出的都市本質

都市の豊富程度將於將顯現於表層。台北，在這個有具備特徵的表層上亦能看出其豐富性。在都市的表層上充斥著過多的識別記號，以及如狹小籠籠般滲透出生活味的集積體……。因創造力所堆疊出的城市表層，其「長期使用」之樣式的多樣化，原封不動地成就了台北的都市活力表現。與歐洲各地都市可觀察到的「靜態」都市表層形成對照的則是「動態」的舉動。有如 TOKYO 過剩的內在分節表面構造所沒有的混沌結構。自台北城市表層抽離出此構造並加以重現，此舉亦同等於灌輸意識，賦予「臺北」特殊化，進而評論一座都市的本質。依循台北的文脈，發掘新的城市表層則為本開發案的一大主題。本案嚐試將擁有城市規模的外表，加入各自相異且被抽象化後的台北表層，以拼貼形式的再構成加以呈現。期待與周圍的都市表層產生共鳴，催生出一座新都市本質的新 TAIPEI URBAN FABRIC 建築。

地點	台灣 台北市
基地面積	12426.40 m <sup>2</sup>
建築面積	5120.51 m <sup>2</sup>
總樓板面積	64339.51 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上 29 層 地下 3 層
用途型式	集合住宅+商業施設

# 遠雄花蓮 05



台湾の都市は看板で溢れかえっている。むせかえるようなサインの氾濫するファサードを持つことが台湾の典型的なビルディング様態であり、それを新しいかたちで再現（リプレゼン）することがここでのテーマである。このビルディングは、保険会社の支店機能に研修宿泊施設が併設されている。今後業務拡大にあわせて各地に建設が計画されることとなる支店群のモデル店舗としての性格が求められた。「パイロン」ウインドウと名付けた水平連装窓は「贈りもの」にかけられた「リボン」のアナロジー。この「リボン」≒「パイロン」ウインドウに保険を通じて「まごころ」を伝えたいという企業メッセージを託している。パイロンウインドウの各所にはプランターが設えられ、そこで育てられた花は顧客へのスーベニアに供されるという使い方の提案が内含されている。記号と機能の重層的表面である。

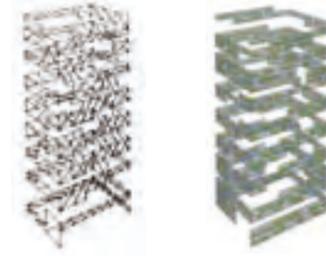


將充斥在都市表面的識別記號填滿

台湾の都市裡充斥著招牌。數量多到令人窒息的招牌看板氾濫於建築物的外觀，此為台灣典型的商業大樓外觀現況，本案的主題是希望這棟大樓以嶄新姿態再度於眾人面前呈現。此棟大樓既是保險公司的分公司也兼設了研修場地與住宿設施。並且配合今後業務的擴大實施，於計劃各地分店建設時可推廣為模範店舖的規劃範本。被命名為「塔樓」式開窗的水平連裝窗，是依「禮物」包裝上的「緞帶」為其意象發展而來。透過「緞帶」≒「塔樓」式開窗所蘊含的真意，希望傳達出保險業之「真心」的企業形象。在所有塔樓式開窗處設置了植栽盆，希望裏面所栽種的花可帶給顧客一種紀念價值。是一個具備象徵性和功能性的多重外觀。

地點	台灣 花蓮市
基地面積	3969.00 m <sup>2</sup>
建築面積	2664.73 m <sup>2</sup>
總樓板面積	11329.20 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上7層 地下2層
用途型式	辦公大樓 + 研修住宿設施

# 遠雄 HOT 03



保險会社の支店網のために案出された「リボン」コンセプトを本社ビルにも適用して計画されたタワー。「リボン」はダブルスパイラル状にボリュームを取り巻く。片方のスパイラルには「構造のリボン」、もう一つは緑化されたテラスの連続体である「緑のリボン」。「構造のリボン」は約20%の省資材化を達成し、「緑のリボン」は排熱/吸気の緩衝帯として機能し、エネルギー効率向上に寄与する。また上昇するダブルスパイラルの構成は、ライジングドラゴンー上昇する社運のアナロジーとして読まれることが期待されている。亜熱帯域での新しい開放環境型オフィスビルのモデルとして「GOBAS」の取得が目指されている。

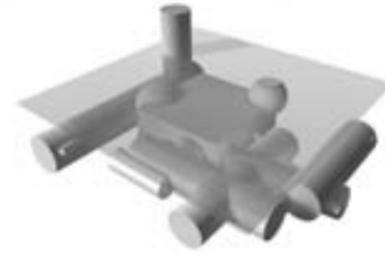


與「摩天樓」相異的上昇意象

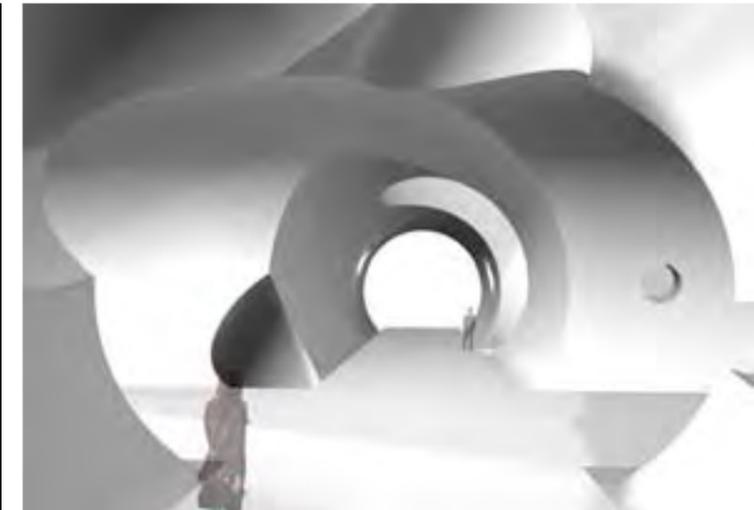
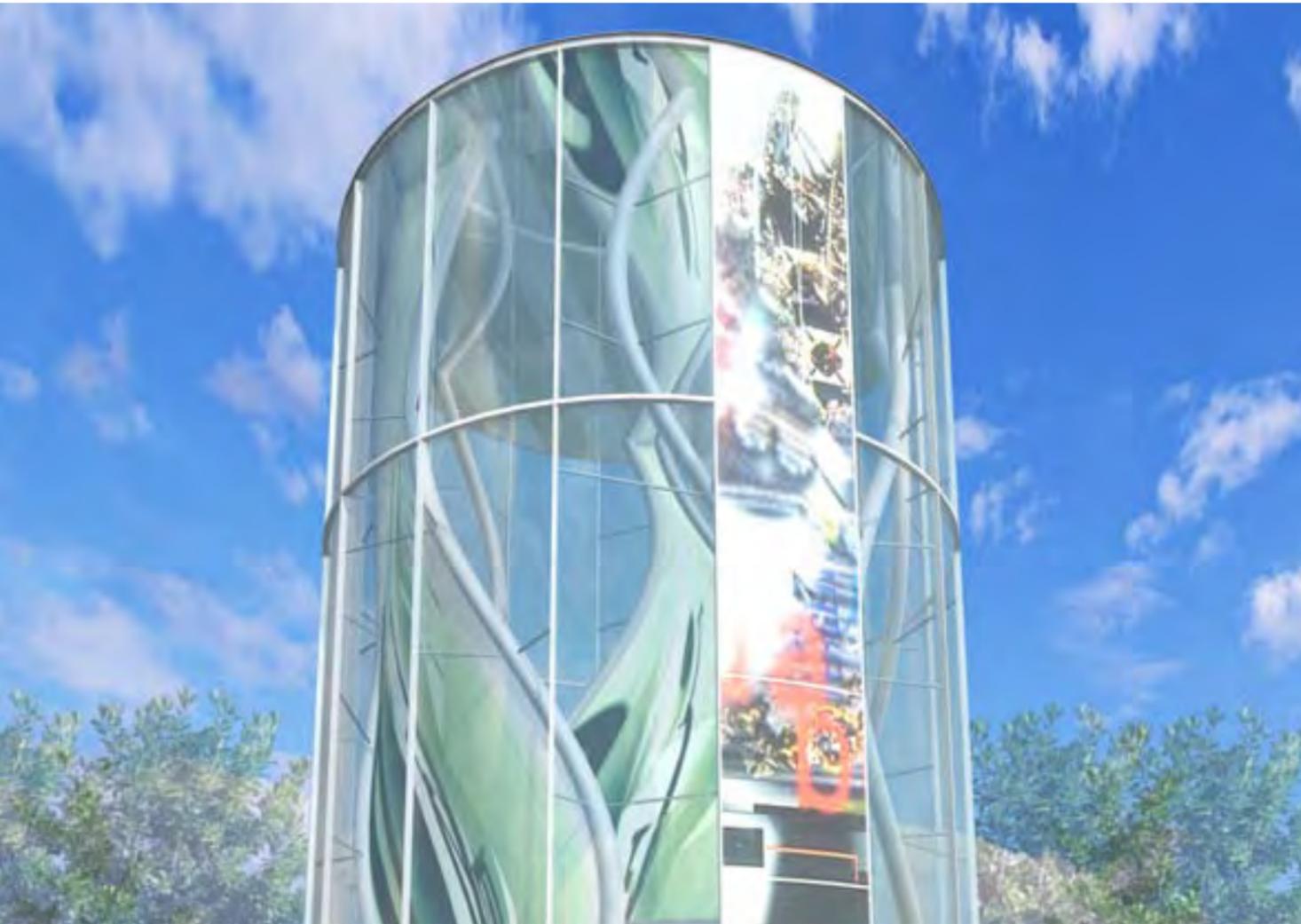
為了保險公司的分店網絡所提出的「緞帶」理念，同樣適用於總公司大樓預計興建的辦公塔樓。將「緞帶」依雙螺旋形方式捲繞出建築量體。一邊的螺旋形為「結構」主體的緞帶，另一側則是「綠化露台」的連續體。「結構緞帶」可達到約20%的節能效果，「綠化露台」緞帶具有排熱 / 吸氣的緩衝地帶的作用，並使能源效率提高了。而上昇的雙螺旋形結構如騰龍飛天般的意象，可解讀為公司運氣的上昇。此案有望被視為亞熱帶地區新型態開放環境式辦公大樓之模範設施，取得「GOBAS」的認證。

地點	台灣 台北市
基地面積	4683.26 m <sup>2</sup>
建築面積	1810.56 m <sup>2</sup>
總樓板面積	72028.96 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上32層 地下4層
用途型式	辦公大樓

# MOT TOTEM



街区開発にともなっていくる公開空地の地下部分にスペースが割り当てられた現代芸術ギャラリー。唯一地上部に顔を出す部分がエントランスホールであり、美術館 (MOT : MUSIUM OF TOMORROW) のサインとしても機能する「トーテムエントランス」である。直径10m、高さ15mのシンプルな円筒状の形態の内側は、分節された部分の集合としての全体ではなく、各部が相互に依存し合うことで成り立つ非線形な力の流れの連続体として現象している。地下には、上部構造と相同のトンネル状の「ギャラリー」ドラムの重合体が彫り込まれている。チューブ状空間の重なり合う部分に表れる稜線が結搾空間 (リングージ) を強化する。中央のスクウェアな空間は「バンケット」としても利用される。台北のホットなアートシーンの社交場的な使われ方が想定されている。



唯一突出地上

將街区開發時一併設置的公共空間地下部分，設計為現代藝廊。唯一突出地上的部分是入口大廳，同時也是美術館 (MOT MUSEUM TOMORROW) の Sign 記號作用的「圖騰入口」。以直徑 10m 高度 15m の簡潔圓柱體存在，卻是，並未被視作分節部分的集合體，依各部位相互依存而成的非線性力量的流動連續體。起伏上昇之膜造構造體與 3 次元崩壞模式的「機械狀系統流 (The machinic phylum)」柱群，加上包覆外圍的玻璃圓柱體之 3 條線狀互相交疊，為一種擁有多工代理人的表徵體現。

地點	台灣 台北市
基地面積	12426.40 m <sup>2</sup>
建築面積	74.66 m <sup>2</sup>
總樓板面積	358.42 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上 1 層 地下 1 層
用途型式	美術館

# TAIPEI CREATOR'S SPACE PROJECT



台湾では、いまだ大家族居住の指向が根強く残っている。故に、この街区ブロックの設計では中心棟を大きなユニットの親世帯、その周りの4棟を核家族仕様のコンパクトなユニット群が収められる住戸構成とし、その関係によって「古くて新しい」ライフスタイルの実現を企図している。中心棟は、それぞれの各家族の出身地から産する石材による円柱でその表面がかたづけられている。また、その有機的な形態には「8」の字が導線やプラン各所に隠され「縁起」の意味が込められている。中国華南地方にのこる客家の現代版と言ったところだろうか。現代の台湾の身体から発するポストコロニアルな「場所」の出現が想起されている。

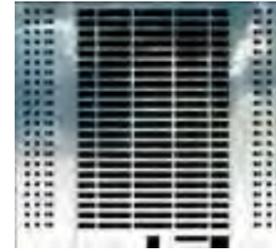


以「好兆頭」為機動力轉換為活動能量

在台灣，目前為止仍保留著多代同堂的大家族習俗。故此街區的設計將中央房舍規劃為以較大坪數的父母居住空間為主，周圍則設計了4棟較小型建築，由子女們各自組成的核心家族居住在此。這樣的設計正好替「古老創新」的生活樣式提供了一個新的註解。建築物中央棟之圓柱表面以各家族出身地所生產之代表石材裝飾，而隱藏於各處之「8」字型有機形態為動線與配置規劃的方式，隱含著「好兆頭」的意義。在平面配置上以及各動線中均可見其端倪。猶如中國華南地區之客家土樓現代版。令人想到這是一個發展自現代台灣後殖民主義的「場所」。

地點	台灣 台北市
基地面積	12426.40 m <sup>2</sup>
建築面積	5430.47 m <sup>2</sup>
總樓板面積	64696.02 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上11層 地下4層
用途型式	集合住宅+商業施設

# DIG TOWER



台北の郊外、川岸のオープンスペースに対面するコンドミニウム。空にとけむように上方にいくほど輝度の高いタイルが貼り込まれ、グラデーションに変化していくファサードが計画されている。エントランスホールは、漢字テキストのメタモルフォーゼによって作りだされたパターンが抜き型されたパネルで構成され、そのパネルを透過する木漏れ日のような光が充滿する空間となっている。台北の朝霧が立ち込める「湿潤な」風土を「朦朧体」と言い表し、形象化を画した。目指しているのは台北故宮博物院収蔵の汝窯の磁器表面、「雨過天青」のあり方である。



汝窯磁器表面

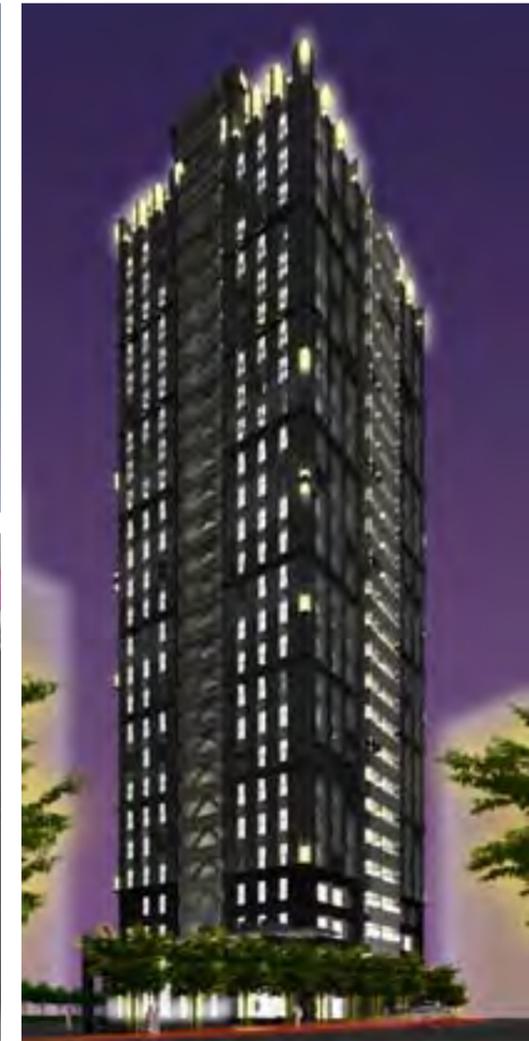
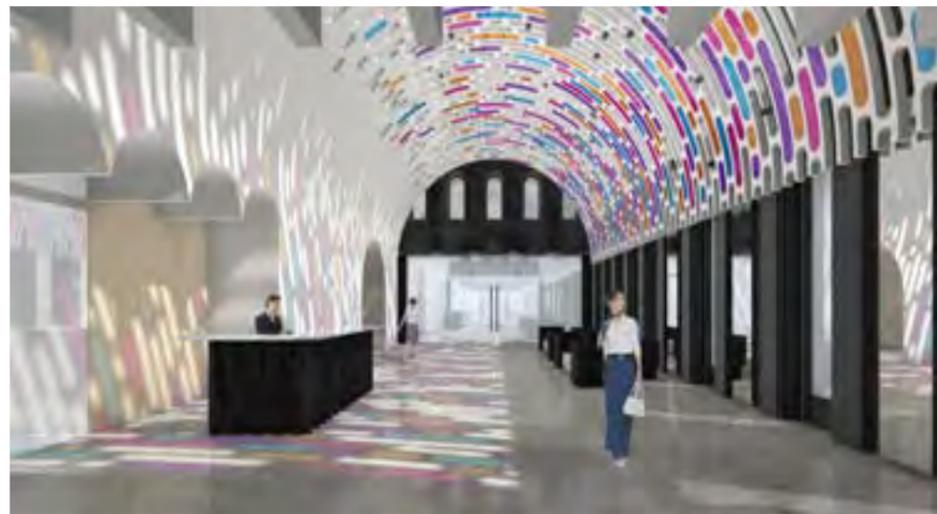
這個作品是一座位於台北郊區，面對河岸旁開放空間的集合住宅。彷彿隨時融入天空般的高亮度磁磚依序向上排列出漸層變化的外觀。入口大廳中裝飾了源自漢字架構發想而創作的變化飾板，屋外的陽光穿過其中傾洩而入。洋溢著台北風土特有濕度的空氣感，其變貌性轉化為「朦朧體」的空間，進而描繪出了它的形象。仿若國立台北故宮博物院裡收藏的宋瓷汝窯磁器表面 - 「雨過天青」一般，溫潤典雅的氣質就是此作品所追求的最高境界。

地點	台灣 台北市
基地面積	2766.84 m <sup>2</sup>
建築面積	1349.91 m <sup>2</sup>
總樓板面積	27519.72 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上 2 3 層 地下 5 層
用途型式	集合住宅

# CHONGSHINDAN



台湾では「様式的」な建築が好まれる。これは、自らのアイデンティティをその都市建築で表現しようとしたチェコのキュビズムなどの国民様式的な建築が表されたメンタリティに近い傾向によるものと思われる。我々は、そこそこに現象している事例から、その組成原理を抽出し再現（リプレゼン）を試みた。ここでは具体的にはL / T / I / +形状のエレメント群体の自己言及（トートロジカル）的な繰り返しから生み出されるパターンから、「重厚さ」や「豪華さ」と言った空間様態が生成されるシステムとして「様式」を再構築している。我々は一連の作品群を通して「台湾クラシズム」の創成の一端を画することを目指している。

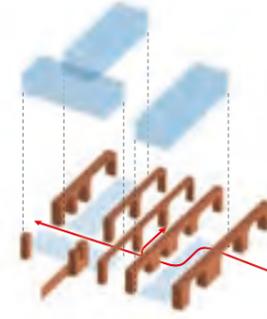


古典様式

在台湾，代表著某種「建築樣式」的建築物較受人喜愛。這種心理，與習於將自身特質表現於都市建築的捷克立體主義等國民樣式建築，有著異曲同工之妙。我們的設計，則是嘗試將此種現象的原理抽出後重新再現與組成。具體操作的方法是將L / T / I / +形狀等元素群體以重覆不斷的增殖手法形成組態，最後依照「厚重」或「豪華」程度加以完成空間樣態，進而組成系統，再加以構築成所謂的「建築樣式」。我們的目標則是以創造出一種劃時代的「台灣古典樣式」而努力。

地點	台灣 新北市
基地面積	2243.98 m <sup>2</sup>
建築面積	1059.15 m <sup>2</sup>
總樓板面積	16046.66 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上26層 地下4層
用途型式	集合住宅

# FUGUIDAN



既に計画が進められてあったプロジェクトの基壇部エントランス領域に再デザインを施すことを依頼された。隣接する公園の広がりや、空間質として計画内にどう取り込むかがテーマである。並列する壁体の重なりから発生する、アーチの連続体の間に据え置かれた3つのパビリオンが、「庭園」と見立てられた周りの環境を取り込む広々としたフィールドに点在する構成。閉じた様相を持つ台湾のコンドミニアムの中ではセキュリティーを保持しつつも、外部に「開かれ」てある、例外的な様相を実現している事例となった。明るく緑溢れる情景が、パビリオンの内部へ豊かに移送されている。また、台湾では、各住居は玄関を持たないというアパートメントの慣習がある。故に、このエントランスが共用の「玄関」として、敷居とシーケンスを持った導入部となることも意識して計画されている。

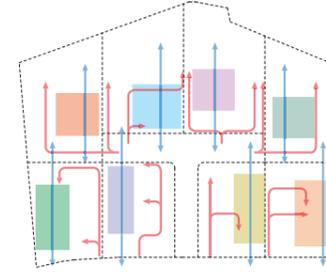


古典様式

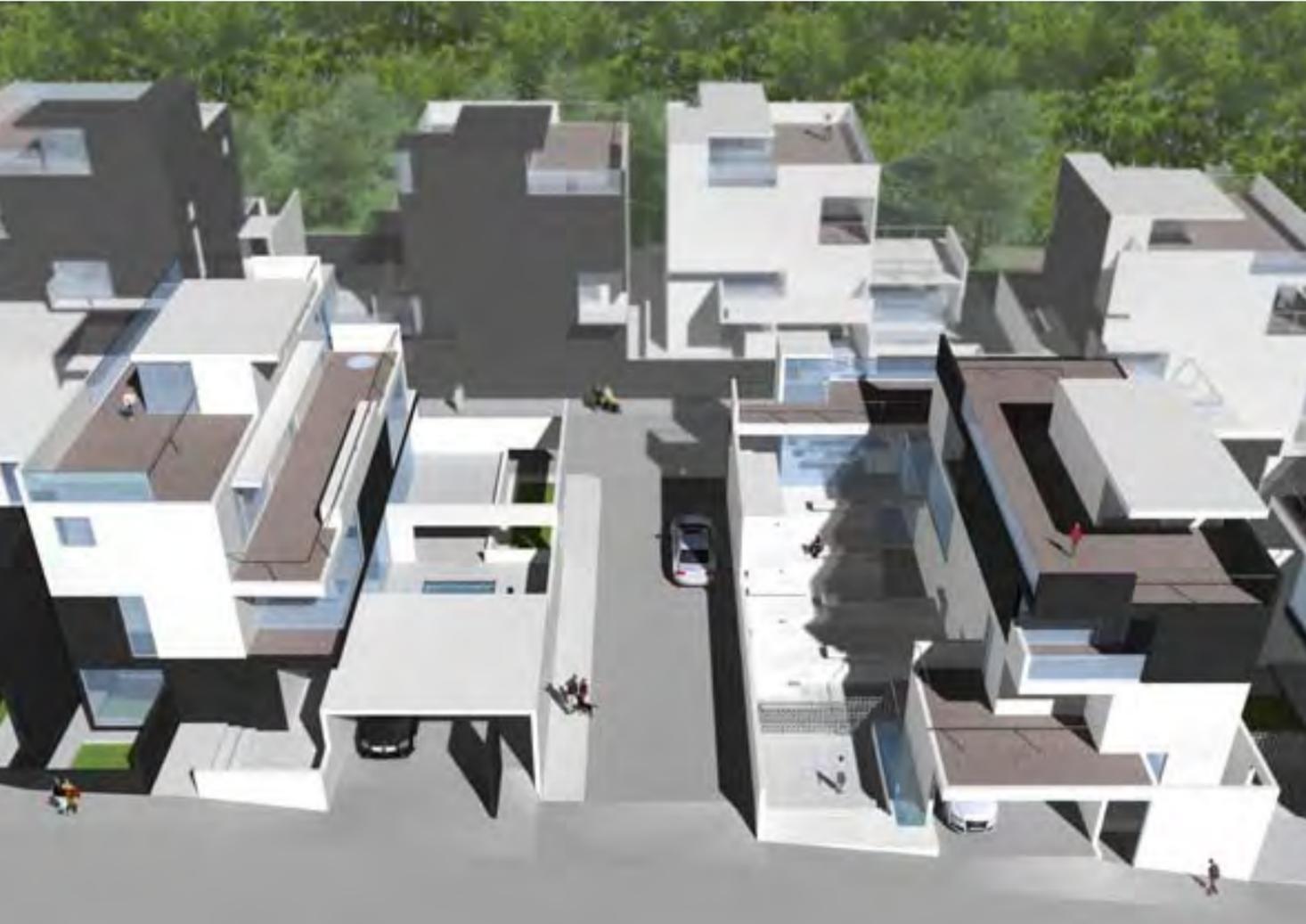
同一件設計案之建築物外觀於既存計劃之外，必須在其基座部分的大門入口處與公共區域進行新增設計規劃。如何有效利用鄰隔廣大公園的優勢，將其開闊的視野融入一層的空間設計之中。計劃中運用了牆體的連續應用，以及拱型的連續造型牆，將3個互相獨立的空間切割出明顯的場域，借景外周公園的開闊綠意營造出猶如自家庭園的開放感。本案嘗試如何於習慣封閉樣式的台灣住宅設計中，創造出同時兼顧保全與外部開放感的規劃。戶外的明亮綠意被帶入室內的空間，營造出豐富的空間表情。且在台灣，通常不論一戶的面積多大，各戶少有專屬玄關空間。在本案的設計中，將此公共空間塑造為「玄關」，再漸次引人進入內部空間，創造出層次豐富的內部動線。

地點	台灣 新北市
基地面積	2766.84 m <sup>2</sup>
建築面積	1349.91 m <sup>2</sup>
總樓板面積	27519.72 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上23層 地下5層
用途型式	集合住宅

# SHAOPINGDING



台湾での都市居住は集合住宅居住が一般的である。しかし近年、高速道路の整備が進み、郊外の一戸建て居住に現実味が増してきた。とは言え、アメリカ型の広い区画に住宅が点在して建ち並ぶ分譲方式は、国土の狭い台湾ではナンセンスであり、ここでは日本型の狭小区画に高い密度で戸建て住居が建ち並ぶ宅地のあり方が妥当だ。故にここでは、各戸の配置関係から、それぞれの開口部 / テラスの配置が調整され、視界や風の通り抜けが計画される日本的「戸建て」の設計手法が施されることとなった。各戸の隣接性をデザインの契機とするデザイン展開を施し、また、各所の壁体はエレメント化され「しつらえ」（調度的な空間が内／外に渡って発生するよう留意されている。「日式」住居形式が新しい性能と価値となって、台湾に向けての新しいライフスタイル提案へと繋がられている。

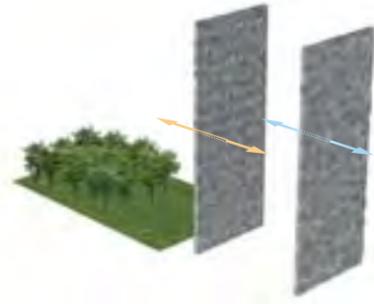


住宅群

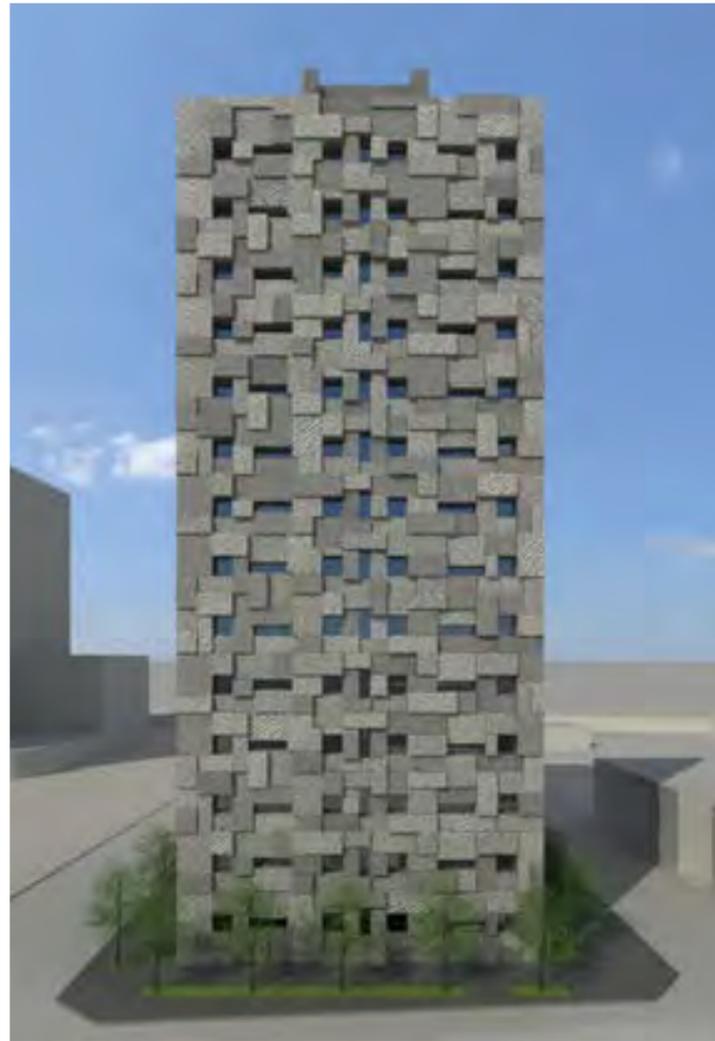
台湾の都市居住は集合住宅が主流。但是、近幾年因高速公路的陸續建設，郊區的獨立住宅也漸漸地普遍起來。話雖如此，美式的大規模社區模式若要複製於台灣，在地小人稠的這片土地上是不適合的。在此案的規劃，則參考日本經驗以小基地規劃出高密度式獨立住宅。各戶的配置關係以及開口部 / 陽台 / 露臺位置的調整與視野及通風計劃等皆以日本的「戸建」（獨棟住宅）為藍本加以設計。設計上所面臨的各戶相鄰的隱私問題，利用共用牆元素的设计，消除了問題的產生，並留意空間使用屬性的相異，創造出屬於內 / 外的不同場域。結果，創造出彷彿「日式」住宅群體般的外觀。「日式」住宅型式所帶來的新性能與新價值，期望能成為台灣的生活樣式新形態。

地點	台灣 新北市
基地面積	3744.94 m <sup>2</sup>
建築面積	1460.52 m <sup>2</sup>
總樓板面積	3726.18 m <sup>2</sup>
結構	鋼筋混凝土
樓高	地上 4 層 地下 1 層
用途型式	專用住宅

# CHONGANDAN 2



前面に大通り、背後に緑が茂る公園がひかえる敷地に計画されたワンフロア／ワンユニットのコンドミニアム。それぞれに面するファサードは凹凸ある石造の壁体であり、この両面に接する内部の空気は石の低熱伝導性能によって熱を奪われて、内部の「基礎体温」の安定化に寄与する。これは、台湾のパイワン族の集落、ヴァナキュラーな壁体性能を参照して考案された開放系空調方式である。夜間は、この石壁のブロックの隙間からこもれ出る光が街に静かに立ち表れるだろう。都市を呼吸する外皮が屹立して正対するその隙間に住ボリュームが挟み込まれることによって、住クオリティー形成の契機が得られると言うシナリオが内包された集住体である。



石積

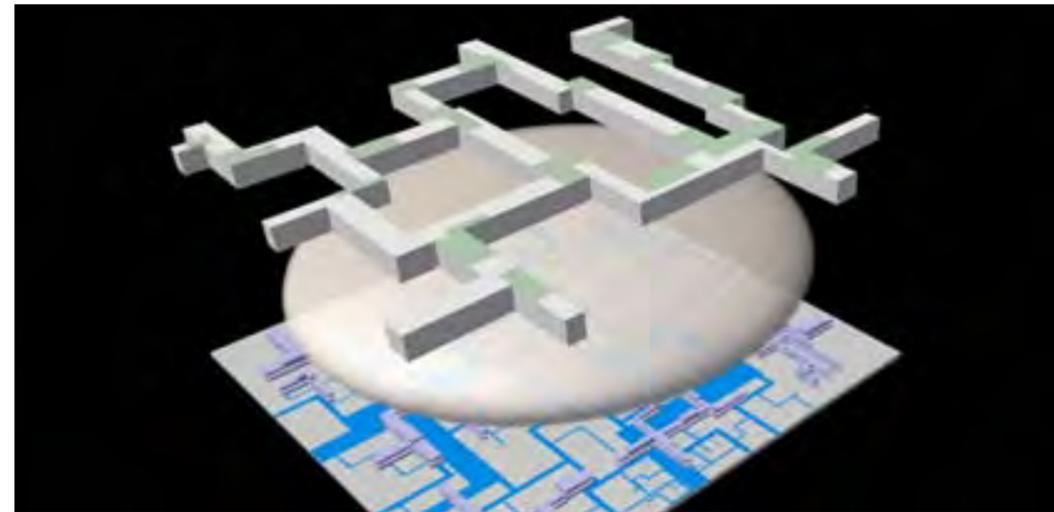
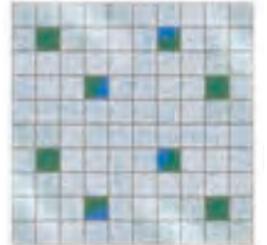
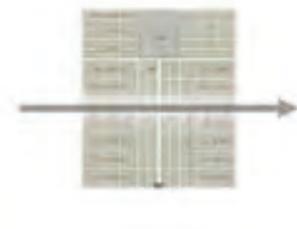
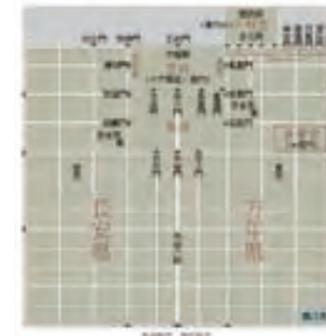
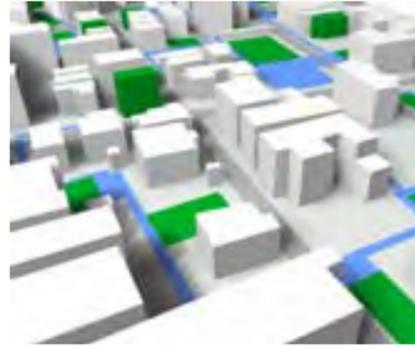
本案基地前方為主幹道，後方則有綠意盎然的公園，是一層一戶的集合式住宅。正面立面與背面立面外觀為凹凸石材堆疊之設計，利用石材本身隔熱以及低熱傳導之特性，內部空間的「基礎體溫」則可達到安定、無激烈變化之虞。台灣原住民排灣族的部落房舍特色即是以當地特有的石板堆疊而成牆體，此案設計時即參考其建築特性而加以運用。夜間，石牆縫隙的外觀將隱約透出來自室內的光影，安靜地主張建築物的存在。與可呼吸的外皮成對比的則是隱藏於縫隙之後的住居群體，塑造出住環境的「質」，最終形成一個完整的集合住宅體。

地點	台灣 台北市
基地面積	1487.71 m <sup>2</sup>
建築面積	545.87 m <sup>2</sup>
總樓板面積	8385.35 m <sup>2</sup>
結構	鋼構+鋼筋混凝土
樓高	地上14層 地下2層
用途型式	集合住宅

# BUKAN ECO-CITY MODEL



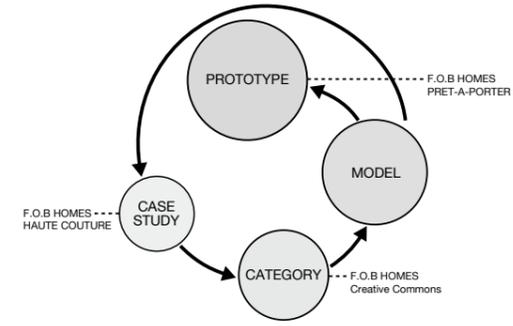
中国では2050年までに沿岸部と奥地農村部の間に、新たに600程の100万人都市の建設が必要だと言われている。現在行われている都市開発の手法では破綻が目に見えており、我々は京都大学で編成されたチームの一員として、その状況に向けたコンパクトシティの提案事業に参加し「中低層高密度都市」を如何に形成するかのリサーチを行っている。大安の条理制を模して、1000年の運用年数を経た「京都」をモデルとし、複層化し立体化した路地の集合体としてのエコシティの「基礎体力」を備えた都市モデルを提案している。立体路地の間に「サンド」されたボリューム内の建築物はフリープランニングとし、制御と自由のバランスを計画。最上部空中領域に水平に繋がるパラレルスカイスクレーパーが配された、新しいかたちの高密度職住近接の都市形態が考案されている。



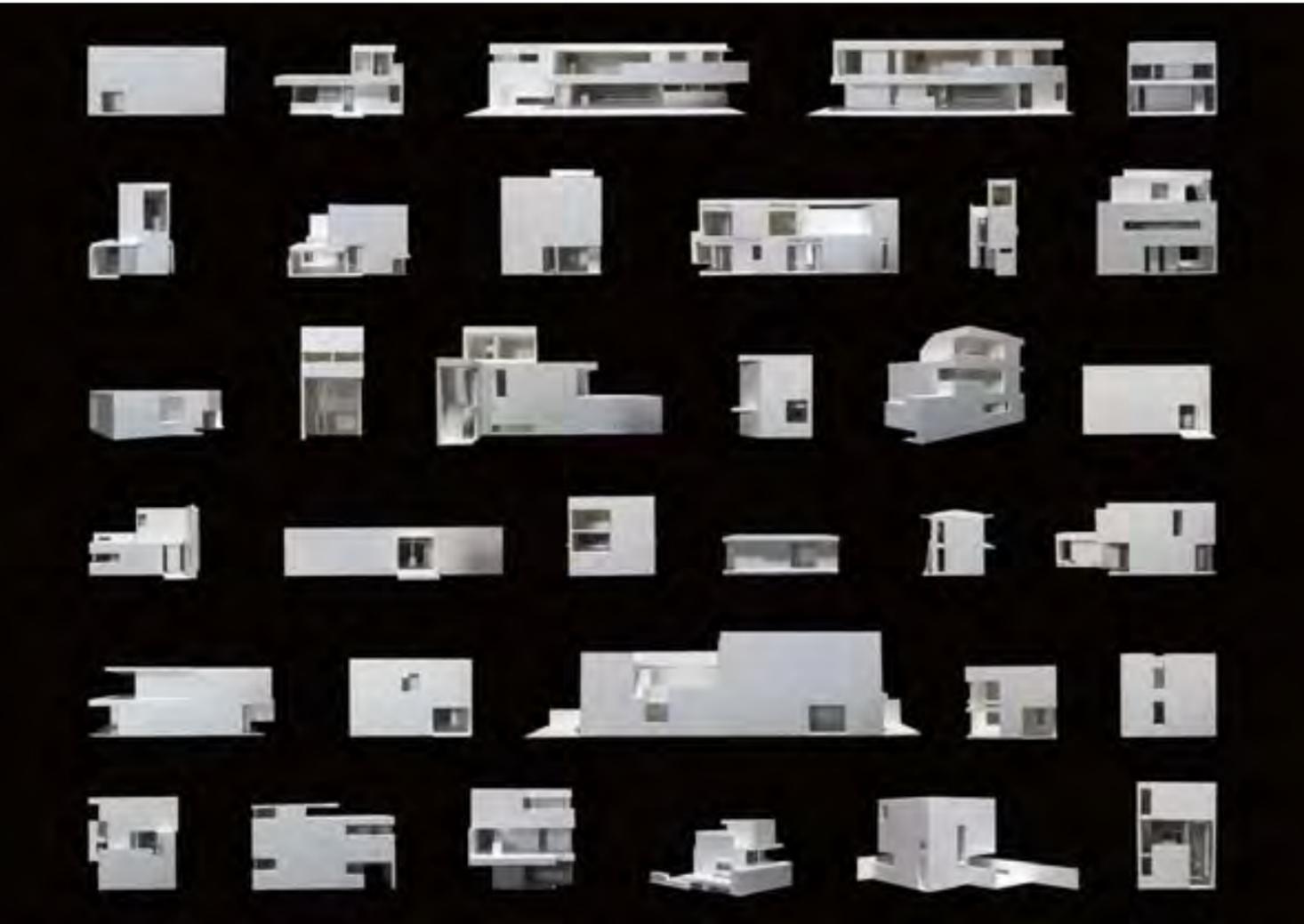
層

地點 中国 湖北省武漢市

# F.O.B HOMES



「戸建て」住宅の大半、つまりは都市に建て込まれる BUILDING の大半が「商品住宅」化されている日本の現状に向けて、その商品 = 「製品」であることによって住宅が被る欠点を分析し、そこから新たな住宅をつくる枠組みをつくり出そうとする FOBA の住分野での、継続的なプロジェクト。雑貨 SHOP である F.O.B COOP を窓口とする「買いかた」や、プロトタイプからモデルへと再帰する設計プロセスをもつ「つくりかた」の提案を通じ、商品住宅の、土地から遊離し完結し過ぎている住性能とは対称的な、未完結の開かれた新しいかたちの商品住宅を「企画」し続けている。1999 年の設立以来、70 棟ほどのケーススタディをつくり得ており、ここからモデル化された新しいプレタポルテ住宅の案出が進められている。



商品住宅

会社概要

名称：株式会社エフオービーアソシエーション

店舗名：F.O.B ASSOCIATION + F.O.B ARCHITECTS

設立：1994年

資本金：1000万円

役員：代表取締役 梅林 克

社員数：8人

所在地：京都府宇治市菟道田中 34-3

TEL.0774-20-0787

FAX.0774-20-9888

FOBA

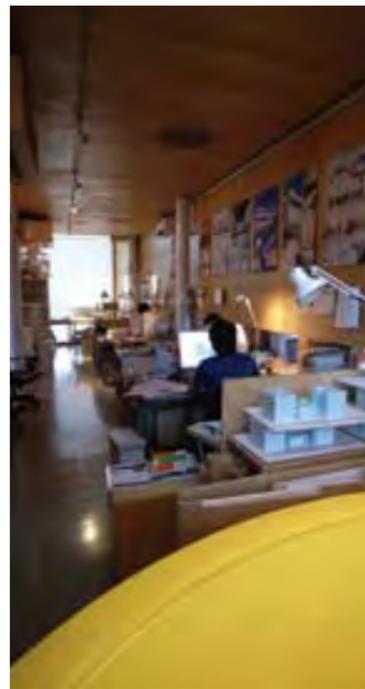
e-mail<info@fob-web.co.jp>

URL<http://fob-web.co.jp>

F.O.B HOMES

e-mail<fobhomes@fob-web.co.jp>

URL<http://www.fobhomes.com>



梅林克 / KATSU UMEBAYASHI  
F.O.B ASSOCIATION 代表  
F.O.B HOMES 建築家

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 1963        | 京都府生まれ                   |
| 1987        | 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業         |
| 1987 - 1993 | 高松伸建築設計事務所               |
| 1994 - 現在   | F.O.B Association 設立     |
| 1996 - 2000 | 京都造形芸術大学芸術学部デザイン学科 非常勤講師 |
| 1998 - 2001 | 京都精華大学美術学部デザイン学科 非常勤講師   |
| 1999 - 現在   | F.O.B HOMES 設立           |
| 1999 - 現在   | 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 客員教授 |
| 2002 - 2003 | 東京都立大学工学部建築学科 非常勤講師      |
| 2004 - 現在   | 京都大学工学部建築学科 非常勤講師        |